



特別支援学校	生活・技術家庭	小学校1～6年
高等学校	工業（課題研究）	1～3年

おもちゃの修理

神奈川県工業高校 総括教諭 日置 賢司

【流れ】

- ① 特別支援学校の対象クラスから、動かないおもちゃ・教材を数点収集する。
- ② 工業高校で精査し、修理の可否等を検討する。
- ③ 可能であれば、当該クラスに持ち込み、その場で修理する。
- ④ 直ったおもちゃ・教材等を日常の学習の補強に役立ててもらおう。

【補足】（メーカーの保障期間が過ぎたものを対象とする。）

・故障品でなくても、分解し、内部の仕組み等の説明を行うことができる。

ただし、分解後の動作保証はできかねます。

・分解により傷がつく場合があります。TVゲーム、電化製品などの精密機械は修理できません。修理に高額な費用がかかる場合やご依頼多数の場合等、修理をお断りさせていただく場合があります。

・生活科、理科、物理、電気、工作、技術家庭及び、職業などに総合的に関わる内容として、モノづくりへの興味を持たせることもできる。

【発展】

ここでの修理・実演を工業高校の「課題研究」または「ボランティア」と位置付け、参加させることも考えられる。

その際は、

- ・事前に収集の案内、ポスター等を作成し、掲示配付に向かう。
- ・おもちゃ等の修理に当たり、現地での作業で見学できるのは数人が限度なので、見学者が多くなりそうな場合は、事前に修理の様子を映像に記録し、現地で解説を加えながら見せる。

これらの活動を通し、ものづくりの良さをあらためて生徒たちに実感してもらおうと共に、活動の様子の情報発信等についても考えてもらえる。